

地域支援事業参画のための  
士会マネジメントに関する  
Q & A

一般社団法人 日本作業療法士協会

地域社会振興部 地域事業支援課  
地域包括ケア推進班  
士会マネジメント事業

2024年7月  
ver.1.0

# 「地域支援事業参画のための 士会マネジメントに関するQ&A」 ご活用の皆様へ

●この度は「地域支援事業参画のための士会マネジメントに関するQ&A」をご覧いただきありがとうございます。このコンテンツは、全国1700の市町村へ作業療法を届けるための具体策集の第1弾として作成しました。

●これまでご協力いただいたアンケートや地域事業支援会議のグループワークで出されたよくある質問から検索できるようにしています。回答は以下をもとに提示しています。

- ・協会の推奨する考え方や方針
- ・[地域包括ケアシステム参画の手引き 第2版](#)(2023年3月刊行)
- ・各都道府県士会での実践事例や資料

●提示内容は、主な活動に共通する事項となっています。そのため、士会での実動においては、必要に応じてブロック機能(協会当班事業にて2019(令和元)年より、近隣士会との互助機能として推進、活動中)を活用してさらに詳細な情報を補っていただき、士会及び市町村の実情に即した方法をご検討ください。

●ブロック内の連絡・連携においては、各士会の地域事業活動を中心的に推進する役職の方で、協会当班主催の地域事業支援会議にご参加いただいている方に「選任者」として連携推進の役割を担って頂いておりますので、選任者の方を通して頂くとスムーズです。選任者の皆様にはぜひご協力をお願いいたします。

●この具体策集は、3カ年で作成し、地域支援事業に関する士会活動のマネジメントについての考え方や具体的な方法、実際の活動例を全国で活動されている会員の皆さんからお寄せいただいた情報をもとに提示してまいります。これまでも、お忙しい中、情報提供を頂きありがとうございます。

●今後も、皆様の日々の活動の成果を共有させていただき、さらに各士会活動の推進につなげていけるよう、提示内容を追加、更新してまいります。情報のご提供と共有へのご協力をお願いいたします。

# 地域支援事業参画のための 士会マネジメントに関するQ&A

## ①市町村担当者配置状況の把握

**Q1.** 市町村担当者配置の目的・具体的な役割は何ですか？

**Q2.** 市町村担当者配置の方法はどのようなものがありますか？

## ②地域性

**Q3.** 過疎地、就労しているOTがない地域にはどのように配置すればよいですか？

**Q4.** 市町村担当者を配置したが、市町村から声がかからない。どうすればよいですか？

## ③士会体制

**Q5.** 士会内の人材確保をどのように進めればよいでしょうか？

## ④多機関との連動

**Q6.** 士会以外の団体(POS・3士会・リハ協議会、広域支援センターなど)が地域支援事業の窓口になっている場合、士会独自での市町村担当者の配置は必要ですか？

**Q7.** OTの専門性に対して依頼が来るようにするには、どのような取り組みをすればよいですか？

**Q8.** 多職種(ケアマネ、歯科衛生士、栄養士、保健師など)との連携はどのように進めるとよいですか？

## ◆ 2023年度 士会マネジメント具体策例

⇒詳細は[こちら](#)(目次は下記参照)

市町村担当者の配置方法関連

情報収集・状況把握関連

士会体制(士会の状況把握)

士会体制(参画方法の検討、啓発活動)

市町村への対応(面識・専門性の提示)

市町村への対応(OTニーズの抽出・対応検討)

# Q1. 市町村担当者配置の目的・具体的な役割は何ですか？

**A.** 作業療法のちからで地域・住民の健康と自立支援に寄与することです。地域での困りごと(OTニーズ)を担当者が吸い上げて、士会関係各所に振り分け、対応に当たるのが最終的なゴールです。

## 大事な視点

### 市町村担当者の役割の基本と段階付け

- A:市町村の担当職員と面識を持つ
- B:市町村の地域事業の状況把握、士会での共有
  - ・各事業の実施状況
  - ・作業療法士の参画状況
- C:依頼に応じた地域支援事業へ参加または人員調整
- D:継続的な地域支援事業への参画または人員調整
- E:担当地域の多職種のネットワークへの参画または人員調整
- F:担当地域の政策形成への参画または人員調整

#### 段階1 士会の実状を踏まえ、実施可能な役割内容を検討しましょう。

- ・まずは士会の実状を把握しましょう ⇒詳細は[こちら\(士会の状況把握\)](#)
- ・A~Fのどこから取り組めるか、具体的な活動内容を段階付けて計画します
- ・士会事業として取り組み、会員の協力を得て活動しましょう  
⇒詳細は[こちら\(参画方法の検討、士会内啓発\)](#)

#### 段階2 対応可能なところから取り組みましょう。

A:市町村の担当者と面識を持つ

関係性の始まりとなる活動として重要です。 ⇒詳細は[こちら\(市町村との面識\)](#)

B:市町村の地域事業の状況把握、士会での共有

士会体制、活動内容など取り組み検討の根拠となり、共有する事が重要です。

※C以降は準備中

⇒詳細は[こちら\(地域の状況把握\)](#)

#### Q1.事例をみる

実際に士会で取り決めている役割内容の例

→北海道士会、新潟県士会の取り組み(2022.10.30人材育成研修会 資料)

→兵庫県士会、茨城県士会、山形県士会の取り組み  
(2024.3.3地域事業支援会議 資料)

## Q2. 市町村担当者配置の方法はどのようなものがありますか？

**A.** 配置のカタログを参考に、士会の状況に応じて対応可能な配置主体、区域、担当者の分担を検討します。

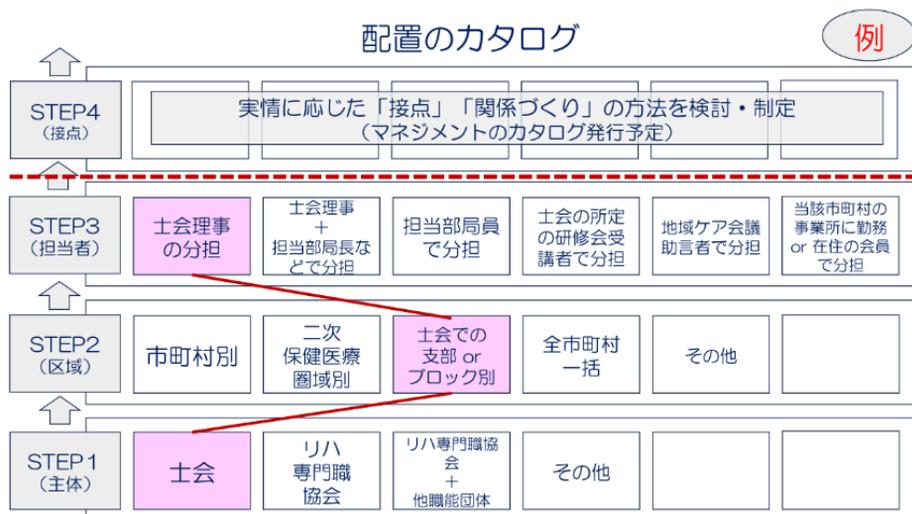
段階1 士会の状況把握 ▶ 詳細は[こちら](#) (士会の状況把握) ▶ 詳細は[こちら](#) (地域の状況把握)

士会の地域支援事業への取り組み、対応可能な人材の状況、リハ専門職協会や支援センターとの連携状況について把握します。



段階2 配置カタログ STEP1～3の検討 ▶ 詳細は[こちら](#) (市町村担当者の配置方法)

士会の状況に応じて各ステップ(主体・区域・担当者)の組み合わせを検討します。



### Q2.事例をみてる

実際に士会で取り決めている役割内容の例

→北海道士会、新潟県士会の取り組み (2022.10.30人材育成研修会 資料)

→兵庫県士会、茨城県士会、山形県士会の取り組み  
(2024.3.3地域事業支援会議 資料)

## Q3. 過疎地、就労しているOTがない地域には どのように配置すればよいですか？

A. その地域の地域支援事業のデザインを確認しましょう。

### 大事な視点

山間部や過疎地域だからこそ、作業療法ニーズがあると考えます

まずは、行政からの依頼に応えられる体制づくりを行いましょ

その地域を含むブロック単位、圏域単位で担当者を配置していきましょ



### 段階1 まずは、その地域の現状の確認をしましょ

市町村のHP等から、保健事業福祉計画や地域づくり分析等のデータが公開されていないか確認してみましょ。

⇒詳細は[こちら](#)(地域の情報把握)

### 段階2 その地域の作業療法ニーズを考えてみましょ。

山間部や過疎地域の地域づくりにおけるアイデアは、行政側から求められる可能性があります。土会で対応可能なサービスの創出案を行政へ提案してみましょ。

⇒詳細は[こちら](#)(ニーズの抽出)

### 段階3 作業療法士の配置

土会の実状に応じた方法で担当者を配置しましょ。

⇒詳細は[こちら](#)(市町村担当者の配置方法)

### Q3.事例をみてる

過疎地、就労しているOTがない地域の例

→地域包括ケアシステム参画の手引き 第2版 P11～

→県アドバイザーとの連携 (2019.8.3 地域支援事業に資する人材育成研修会 資料)

→北海道士会の取り組み (2024.10.30 地域支援事業に資する人材育成研修会 資料)

→高知県土会の取り組み

(2023.11.10 令和5年度老人健康増進等事業 地域包括ケア推進に向けた

地域リハビリテーション専門職等研修会 広島 資料)

## Q4.市町担当者配置したが、市町村から声がかからない。 どうすればよいですか？

- A. 作業療法士が地域でどのようなことができるかについて、市町村の理解を得るための活動が必要かもしれません。

### 大事な視点

市町村の事業内容を具体的に把握し、情報を得ることがとても重要です。

地域ケア会議や地域支援事業に参加している会員がいれば、ぜひ情報を共有しましょう！  
そのうえで参画の方法を検討し、市町村の事業に士会でどのような対応ができるかを伝えていきましょう。



### 段階1 市町村の地域支援事業の実施状況を把握しましょう。

- まずは市町村事業のそれぞれの事業を、どこの団体または事業所が行い、どのような内容で、どの程度実施しているか知ることが重要です。

⇒詳細は[こちら](#)(地域の状況把握)

### 段階2 事業へ参画する具体的な方法を検討しましょう。

- 収集した情報より、士会として参画していくことが可能な事業を検討し、その参画チームの体制を作りましょう。
- 参画する方法を検討し、行政担当者にもわかりやすい具体的な資料を作成しましょう。

⇒詳細は[こちら](#)(参画方法の検討、啓発活動)

### 段階3 市町村の担当者に士会で対応可能な内容を伝えましょう。

- 市町村の事業の担当課に連絡を取り、時間を取ってお話を聞いていただく機会を設定しましょう。地域ケア会議等で市町村事業の行政担当者の紹介を受けることもよいでしょう。
- 会長や理事にも協力を得ましょう。 ⇒詳細は[こちら](#)(市町村対応)

### Q4.事例をみる

担当者配置後の取り組みの例

→地域包括ケアシステム参画の手引き 第2版 P11～

→大阪府士会の取り組み(2022.10.30 地域支援事業に資する人材育成研修会 資料)

→長崎県士会の取り組み

(2023.2.12 地域支援事業への参画推進のためのWEB研修会資料)

## Q5. 士会内の人材確保をどのように進めればよいのでしょうか？

A. ファーストステップは、市町村別の士会の状況確認です。

### 大事な視点

#### まずは、士会の状況把握を行いましょう

- ・士会内の啓発を推進し、士会の状況や取り組みを共有しましょう
- ・市町村担当者1人に全てを任せるのではなく、できる限り複数人に関する体制を作りましょう
- ・研修会にて、人材育成システムを構築しましょう

#### 段階1 士会の現状把握

- ・派遣体制、人材、情報管理などについて、士会の状況を把握しましょう。  
⇒詳細は[こちら\(士会の状況把握\)](#)

#### 段階2 作業療法士の配置

- ・その市町村に核となるOTを配置しましょう。 ⇒詳細は[こちら\(市町村担当者の配置方法\)](#)
- ・市町村の担当者であることを内外に示しましょう。

#### 段階3 啓発活動

- ・士会の取り組みを明確化して内外に示しましょう。 ⇒詳細は[こちら\(啓発活動\)](#)
- ・士会内啓発はとても重要です。士会員向けの活動や成功事例についてニュースレターやリーフレットを作成し、配信してみましょう。
- ・士会外への啓発は、士会の取り組みを明示することが大切です。その内容を士会でも共有しましょう。 →参考資料:事例へのリンク一覧ページ(Q5 リフレット)をご参照ください。

#### 段階4 研修会の開催

- ・研修会の開催は、士会が行っている事業を内外に示すチャンスとなります。
- ・士会内向けの研修会は、小規模単位で行ったり、対象者別の内容で企画したり、いろいろな工夫が必要です。理事・ブロック長の参加も促してみましょう。
- ・士会外向けの研修会は、目的をしっかりと立てましょう。作業療法の啓発目的なのか、スキルアップの研修会なのかなど、参加者・対象者に合わせて、啓発をしましょう。

#### Q5.事例をみてる

- 人材確保:栃木県士会の取り組み(2022.10.30人材育成研修会資料)
- 人材育成:山口県士会、大分県士会の取り組み(2022.10.30 人材育成研修会 資料)
- リーフレット:新潟県作業療法士会 リフレット ~作業療法士にできること~

## Q6.士会以外の団体(POS・3士会・リハ協議会、広域支援センター等)が窓口の場合、士会独自での市町村担当者の配置は必要ですか？

A. OTが関わっていない市町村があれば、それを解決するシステム作りが必要かもしれません。

### 大事な視点

該当市町村の特性に応じたOTニーズの吸い上げを行いましょう  
OTの強みを活かした地域への関わり方を他団体や行政と検討する  
役割として、OTを配置してはいかがでしょうか

### 段階1 まずは状況を把握しましょう

- 把握① 団体の中でのOTの配置状況
- 把握② 実働の派遣体制
- 把握③ 団体が担っている地域支援事業 →詳細は[こちら\(派遣体制の状況\)](#)

### 段階2 状況を把握したら体制を整えましょう

- 体制① OTが関与していない市町村があった場合は、関与できる体制を団体内や士会内で整えましょう →詳細は[こちら\(市町村担当者の配置方法\)](#)
- 体制② 登録医療機関以外の会員が参画できる仕組みを作ってみましょう  
例)登録医療機関外に所属する地域事業に参画できるOTの名簿を研修会などを通して作成し団体と共有する、など(詳細は準備中)
- 体制③-1 団体が担っていない地域支援事業へのOTの関与について士会内の体制を整えてみましょう  
例1)士会3役が団体と関わり事業提案をし易い環境を整える  
例2)団体の研修会を共催し、互いの視点や人材の登録情報を共有する
- 体制③-2 団体が十分に地域支援事業に参画している場合は、専門性を活かした人選ができるような体制を団体内で整えると良いでしょう

### 段階3 体制が整ったらアプローチの仕方を考える

OTの強みを活かせる新規事業の開拓への可能性の視点に立ち、士会内の体制を整えてみましょう。

→OTの専門性に対して依頼が来るような取り組みについては[Q7](#)

## Q7. OTの専門性に対して依頼が来るようにするためにはどのような取り組みをすればよいですか？

### A1. 地域支援事業の取り組みに消極的な市町村の場合

- ・地域の状況に応じて士会ができる取り組みを提案しましょう

⇒詳細は[こちら](#)(ニーズの抽出・対応検討)

### A2. 行政側からリハ職を一括りにされてしまう場合

- ・OTの専門性に対して依頼が来るような取り組みをしてみましょう

取り組み① 団体や行政に対し、地域支援におけるPOSの視点の違いや、士会として対応可能な事業内容を提示し、参画が必要な事業へつなぐ

取り組み② 保健所(行政)勤務のOTと繋がり、地域課題に向けてOTができる事をアピールする

⇒詳細は[こちら](#)(市町村への対応・専門性の提示)

#### Q7.事例をみてる

→派遣体制:宮城県士会の取り組み(2024.10.30 人材育成研修会 資料)

→他団体との協力体制:東京都士会の取り組み(2024.10.30 人材育成研修会 資料)

## Q8.多職種(ケアマネ、歯科衛生士、栄養士、保健師等)との連携はどのように進めるとよいですか？

A. 新たなネットワークの構築だけでなく、既存のネットワークも活用しましょう

### 大事な視点

**連携を図るには、顔の見える関係性を築くことが効果的です。**

会合などを積極的に活用し、情報の交換や共有だけでなく、OTのもつ視点やできることを伝えて理解してもらいましょう。



### 会合やICTを活用しましょう

- A) リハ連絡会を活用し情報収集をする
- B) 地域ケア会議にて顔の見える関係性を築く
- C) 地域ケア会議のフィードバック会の開催を行政に依頼し、顔なじみの関係性を強める
- D) 多職種地区別研修会(意見交換会)を共催、または士会主催の研修会に多職種を招き顔の見える関係性を築く
- E) LINEなどのICTを活用し、多職種と繋がる など

### Q8.事例をみてる

- 多様なネットワーク構築:静岡県士会の取組み (2024.10.30 人材育成研修会 資料)
- 多様なネットワーク構築:広島県士会の取組み (2024.10.30 人材育成研修会 資料)

## ◆Q1～Q8 事例へのリンク 一覧

### Q1.事例をみてる

実際に士会で取り決めている役割内容の例

- [北海道士会](#)、[新潟県士会](#)の取り組み（2022.10.30人材育成研修会 資料）
- [兵庫県士会](#)、[茨城県士会](#)、[山形県士会](#)の取り組み（2024.3.3地域事業支援会議 資料）

### Q2.事例をみてる

実際に士会で取り決めている役割内容の例

- [北海道士会](#)、[新潟県士会](#)の取り組み（2022.10.30人材育成研修会 資料）
- [兵庫県士会](#)、[茨城県士会](#)、[山形県士会](#)の取り組み（2024.3.3地域事業支援会議 資料）

### Q3.事例をみてる

過疎地、就労しているOTがいない地域の例

- [地域包括ケアシステム参画の手引き 第2版 P11～](#) [（全文はこちら）](#)
- [県アドバイザーとの連携](#)（2019.8.3 地域支援事業に資する人材育成研修会 資料）
- [北海道士会の取り組み](#)（2024.10.30 地域支援事業に資する人材育成研修会 資料）
- [高知県士会の取り組み](#)（2023.11.10 令和5年度老人健康増進等事業 地域包括ケア推進に向けた地域リハビリテーション専門職等研修会 広島 資料）

### Q4.事例をみてる

担当者配置後の取り組みの例

- [地域包括ケアシステム参画の手引き 第2版 P11～](#) [（全文はこちら）](#)
- [大阪府士会](#)の取り組み（2022.10.30 地域支援事業に資する人材育成研修会 資料）
- [長崎県士会](#)の取り組み（2023.2.12 地域支援事業への参画推進のためのWEB研修会資料）

### Q5.事例をみてる

→人材確保：[栃木県士会](#)の取り組み（2022.10.30人材育成研修会資料）

→人材育成：[山口県士会](#)、[大分県士会](#)の取り組み（2022.10.30 人材育成研修会 資料）

→リーフレット：[新潟県作業療法士会](#)リーフレット ～作業療法士にできること～

### Q7.事例をみてる

→派遣体制：[宮城県士会](#)の取り組み（2024.10.30 人材育成研修会 資料）

→他団体との協力体制：[東京都士会](#)の取り組み（2024.10.30 人材育成研修会 資料）

### Q8.事例をみてる

→多様なネットワーク構築：[静岡県士会](#)の取組み（2024.10.30 人材育成研修会 資料）

→多様なネットワーク構築：[広島県士会](#)の取組み（2024.10.30 人材育成研修会 資料）

## ◆2023年度 士会マネジメントの具体策例(目次)

市町村担当者の配置方法関連

情報収集・状況把握関連

士会体制(士会の状況把握)

士会体制(参画方法の検討、啓発活動)

市町村への対応(面識・専門性の提示)

市町村への対応(OTニーズの抽出・対応検討)

# 市町村担当者の配置方法関連

**Q2** 一段階2 土会の状況に応じて各ステップ(主体・区域・担当者)の組み合わせを検討します

**Q3** 一段階3 作業療法士の配置

・土会の実状に応じた方法で担当者を配置しましょう。

**Q5** 一段階2 作業療法士の配置

・その市町村に核となるOTを配置しましょう。  
・市町村の担当者であることを内外に示しましょう。  
→参考資料:事例へのリンク一覧ページ(Q5 リーフレット)をご参照ください。

**Q6** 一段階2 状況を把握したら体制を整えましょう

体制① OTが関与していない市町村があった場合は、関与できる体制を団体内や士会内で整えましょう。



**市町村担当者の配置方法** ※配置のカタログ(Q2ページ)をご参照ください。

●土会の状況に応じて各ステップ(主体・区域・担当者)の組み合わせを検討します。

○主体の選定について

・地域支援事業への参画・派遣主体が士会以外の場合は、他団体との協働を参照ください。  
⇒(情報収集・状況把握関連)ページおよび(派遣体制 POS団体が窓口の場合)はQ6ページをご参照ください。

○区域の選定について

・土会の実状に応じて、まずは圏域ごとの配置からでも構いません。配置が可能な市町村から配置し、不在の市町村を圏域でフォローするなど、実現可能な方法でご検討ください。

●担当者の選定について

・参画して実働している会員でも、派遣調整や窓口担当をしている員でもよく、両方を兼ねている会員でも構いません。  
・担当者が恒久的にその市町村に関わるかはわかりません。2人以上のペアで「主担当」・「副担当」を配置するといいいでしょう。「窓口担当」・「実働担当」でも構いません。  
・いない場合は、士会内の会長や理事に相談してみてください。  
・市町村の担当者であることを内外に示しましょう。  
→参考資料:事例へのリンク一覧ページ(Q5 リーフレット)をご参照ください。  
⇒(士会内啓発)ページおよび(市町村対応)ページをご参照ください。

[Q一覧に戻る](#)

# 情報収集・状況把握関連

## Q1－段階2 対応可能なところから取り組みましょう。

B:市町村の地域事業の状況把握、士会での共有 について士会体制、活動内容など取り組みの検討の根拠となる情報であり、共有する事が重要です。

## Q2－段階1 士会の状況把握

・士会の地域支援事業への取り組み、対応可能な人材の状況、リハ専門職協会や支援センターとの連携状況について把握します。

## Q3－段階1 まずは、その地域の現状の確認をしましょう

・市町村のHP等から、保健事業福祉計画や地域づくり分析等のデータが公開されていないか確認してみましょう。

## Q4－段階1 市町村事業の地域支援事業の実施状況を把握しましょう

・まずは市町村で地域支援事業のそれぞれの事業を、どこの団体または事業所が行い、どのような内容で、どの程度実施しているか知ることが重要です。

## Q6－段階1 まずは状況を把握しましょう

把握③ 団体が担っている地域支援事業

### 地域の状況把握

#### ● 市町村での実際の事業実施状況

##### ○事業内容、頻度、場所、参加者数、参画職種・団体・事業所 など

- ・作業療法士以外の職種の参画についても確認しましょう。
- ・市町村への問い合わせの他、HP等から、保健事業福祉計画や地域づくり分析等のデータが公開されていないか確認してみましょう。
- ・その地域の地域支援事業がどのようにデザインされているかを見ていきましょう。
- ・県アドバイザーと連携して、情報収集することも良いでしょう。  
→参考資料:事例へのリンク一覧ページ(Q3 県アドバイザーとの連携)をご参照ください。
- ・実際に地域支援事業や地域ケア会議に参加している会員がいれば情報を得ましょう。

#### ● 作業療法士の参画状況

##### ○事業分類、内容、頻度、参画人数、事業における役割 など

- ・会員または非会員の参画状況についても把握しましょう。

### 派遣体制の確認

#### ● 派遣体制の状況

士会、POS団体、広域支援センター、その他の団体など派遣主体と体制を把握しましょう。

##### ■士会が主体となって派遣している場合

窓口担当者、調整担当者、対応可能な人材など

##### ■POS団体、広域センター、その他が主体となって派遣している場合

把握① 団体の中でのOTの配置状況を把握しましょう

OTが配置されていない、または関わっていない市町村がないか

把握② 実働の派遣体制を把握しましょう

人選方法、派遣ルート

把握③ 団体が担っている地域支援事業を把握しましょう

市町村が展開する地域支援事業と、団体が担う事業の把握

#### ● 情報収集を効率的に行う方法を検討しましょう。

- ・アンケートや報告書の作成では、精度、回収率を上げるため、情報収集の目的と必要項目を明確にし、回答の予想が立てられる場合は選択肢を用意しましょう。
- ・Googleフォーム、LINE、メーリングリスト等の活用も回答・集約ともに負担軽減になり有用です。
- ・結果を士会員に情報提供し、共有しましょう。
- ・協会地域社会振興部(地域事業支援課地域包括ケア推進班)によるOT参画実態調査の士会別結果報告もご活用ください。

# 士会体制(士会の状況把握)

**Q1**－段階1 士会の実状を踏まえ、実施可能な役割内容を検討しましょう。  
まずは士会の実状を把握しましょう。

## **Q2**－段階1 士会の状況把握

士会の地域支援事業への取り組み、リハ専門職協会や支援センターとの連携状況、対応可能な人材の状況について把握します。

## **Q5**－段階1 士会の状況把握

派遣体制、人材、情報管理などについて、士会の状況を把握しましょう。

### 士会の状況把握

#### ●派遣体制

- ・士会の窓口担当者と調整担当者
- ・リハ専門職協会や支援センターとの連携状況

#### ●人材と活動内容

- ・参画している会員と市町村名、活動内容、事業における役割
- ・対応可能な人材
- ・士会での地域支援事業への取り組み

#### ●情報管理

- ・士会内にある地域支援事業の参加者のデータの一元化を図りましょう(事務局やブロック・部局内情報)。
- ・データの情報漏洩に注意してください。データの統合作業は、士会の事務局を中心に行うなど士会の協力が得られると安心です。
- ・一元化した情報の中に特定の情報のない市町村があるかもしれません。その市町村に所属するOT、多職種、地域包括支援センターなどに確認してみてください。
- ・面識のない市町村や地域包括支援センターに問い合わせる時は、できればいきなり情報提供を求めず、まずは士会の役職者と一緒に顔合わせをしてから、情報提供をお願いすることをお勧めします。その後の地域支援事業への参画にも役立ちます。⇒(市町村との面識)ページをご参照ください」。

#### ●情報収集を効率的に行う方法を検討しましょう。

- ・会員向けのアンケートや報告書の作成では、精度、回収率を上げるため、情報収集の目的と必要項目を明確にし、回答の予想が立てられる場合は選択肢を用意しましょう。
- ・Googleフォーム、LINE、メーリングリスト等の活用も回答・集約ともに負担軽減になり有用です。
- ・結果を士会員に情報提供し、共有しましょう。
- ・協会地域社会振興部(地域事業支援課地域包括ケア推進班)によるOT参画実態調査の士会別結果報告もご活用ください。

# 士会体制(参画方法の検討、啓発活動)

## Q1-段階1 士会の実状を踏まえ、実施可能な役割内容を検討しましょう。

- ・士会事業として取り組み、会員の協力を得て活動しましょう。

## Q4-段階2 事業へ参画する具体的な方法を検討しましょう。

- ・収集した情報より、士会として参画していくことが可能な事業を検討し、その参画チームの体制を作りましょう。
- ・参画する方法を検討し、行政担当者にもわかりやすい具体的な資料を作成しましょう。

## Q5-段階3 啓発活動

- ・士会の取り組みを明確化して内外に示しましょう。

### 啓発活動・士会の取り組みの明示

- 啓発活動には士会内への啓発と士会外への啓発が必要です。
  - 収集した地域の情報より、士会として参画していくことが可能な事業を検討し、その参画チームの体制を作りましょう。
    - ⇒参考はこちら:地域包括ケアシステム参画の手引き
      - Ⅱ 多(他)職種、行政、地域との連携のための関係づくり
      - Ⅲ 地域ケア会議と生活行為向上
      - Ⅳ 介護予防・日常生活支援総合事業と生活行為向上支援
  - 参画する方法、具体的な活動内容を検討しましょう。
- 士会内啓発・情報共有
    - ・士会員向けの活動はとても重要です。
    - ・士会で参画する事業や参画体制、活動内容について、ニュースレターやリーフレットを作成し、配信してみましょう。→参考資料:事例へのリンク一覧ページ(Q5 リーフレット)をご参照ください。
    - ・積極的にかかわっている市町村(重点支援市町村)を作り、成功事例を会員に啓発しましょう。
  - 士会外啓発・体制検討
    - ・行政担当者にもわかりやすい具体的な資料を作成しましょう。作業療法士のできることに、実際に士会で取り組み可能な内容、担当者が誰なのかが分かるようにすることが大切です。
    - ・市町村や多職種に理解を得るための活動を士会長・理事の協力を得て行いましょう。
      - ⇒(市町村への対応)ページおよび(多職種との協働)Q8ページをご参照ください。

### 派遣体制の調整(準備中)

#### 段階2 状況を把握したら体制を整えましょう

- 体制① OTが関与していない市町村の場合は、関与できる体制を団体内や士会内で整えましょう
  - ⇒市町村担当者の配置方法について(市町村担当者の配置方法)ページをご参照ください。
- 体制② 登録医療機関以外の会員が参画できる仕組みを作ってみましょう
  - 例)登録医療機関外に所属する地域事業に参画できるOTの名簿を、研修会などを通して作成し団体と共有する、など
  - ⇒詳細は準備中です
- 体制③-1 団体が担っていない地域支援事業へのOTの関与について士会内の体制を整えてみましょう
  - 例1)士会3役が団体と関わり事業提案をし易い環境を整える
  - 例2)団体の研修会を共催し互いの視点や人材の登録情報を共有する
- 体制③-2 団体が十分に地域支援事業を展開している場合は、専門性を活かした人選ができるような体制を団体内で整えると良いでしょう

# 市町村への対応(市町村との面識・専門性の提示)

## Q1-段階2 対応可能なところから取り組みましょう。

A:市町村の担当者との面識を持つ  
関係性の始まりとなる活動として重要です。

## Q4-段階3 市町村の担当者に土会で対応可能な内容を伝えましょう。

- ・市町村の事業の担当課に連絡を取り、時間を取ってお話を聞いていただく機会を設定しましょう。地域ケア会議等で市町村事業の行政担当者の紹介を受けることもよいでしょう。
- ・会長や理事にも協力を得ましょう。

## Q7-A2 行政側からリハ職を一括りにされてしまう場合

OTの専門性に対して依頼が来るような取り組みをしてみましょう

- A)団体や行政に対し、地域支援におけるPOSの視点の違いや、土会として対応可能な事業内容を提示し参画が必要な事業へつなぐ
- B)保健所(行政)勤務のOTと繋がり、地域課題に向けてOTができる事をアピールする



## 市町村との面識・専門性の提示

- 担当者が直接電話して、介入しているOTはいないか確認することも最初の接点としてよいでしょう。
- これまで関わりがなかった市町村には、会長、理事とともに挨拶に行きましょう。まずは会長から担当課の課長にアポイントを取ってもらいましょう。
- 作業療法士は地域支援事業で何ができるか、実際に土会ではどんな対応ができるか、依頼窓口はだれか、などをリーフレットなどで示しましょう。
- 市町村の事業計画を広報誌やHPなどで確認し、事業内容に関して、また地域住民の方の幸せな生活の実現に向けて、OTは何ができるかを具体的に伝えましょう。  
→参考資料:事例へのリンク一覧ページ(Q5 リーフレット)をご参照ください。
- 自立支援型地域ケア会議や地域支援事業に参加していれば、そういった事業を通じて、行政担当者の紹介を受け、連絡を取り、時間を取ってお話を聞いていただく機会を設定しましょう。できれば会長や理事にも同席していただきましょう。

# 市町村への対応(OTニーズの抽出・対応検討)

## Q3－段階2 その地域の作業療法ニーズを考えてみましょう。

- ・山間部や過疎地域の地域づくりにおけるアイディアは、行政側から求められる可能性があります。士会で対応可能なサービスの創出案を行政へ提案してみましょう。

## Q7－A1 地域支援事業の取り組みに消極的な市町村の場合

- ・地域の状況に応じて士会でどのような取り組みが可能か提案しましょう。



### 作業療法ニーズの抽出・対応の検討

- 山間部や過疎地域の地域づくりにおけるアイディアは、行政側から求められる可能性があります。サービスの創出案を行政へ提案してみましょう。
- 地域支援事業への取り組みに消極的な市町村に対し、作業療法の視点や士会で可能な対応を提案して、どのような取り組みができるか検討してみましょう。
- 自立支援型地域ケア会議は行政と関わるチャンスです。事例を通して、具体的な自立支援の考え方を伝える場となり、地域資源の活用や活動・参加の可能性を広げていく提案をしていけると良いでしょう。
- 地域支援事業を通して、「活動と参加」への働きかけ、対象者の生活行為向上の取り組み、認知症や精神障害への支援など、具体的な対応の提案や実際の提供を行っていけると良いでしょう。